

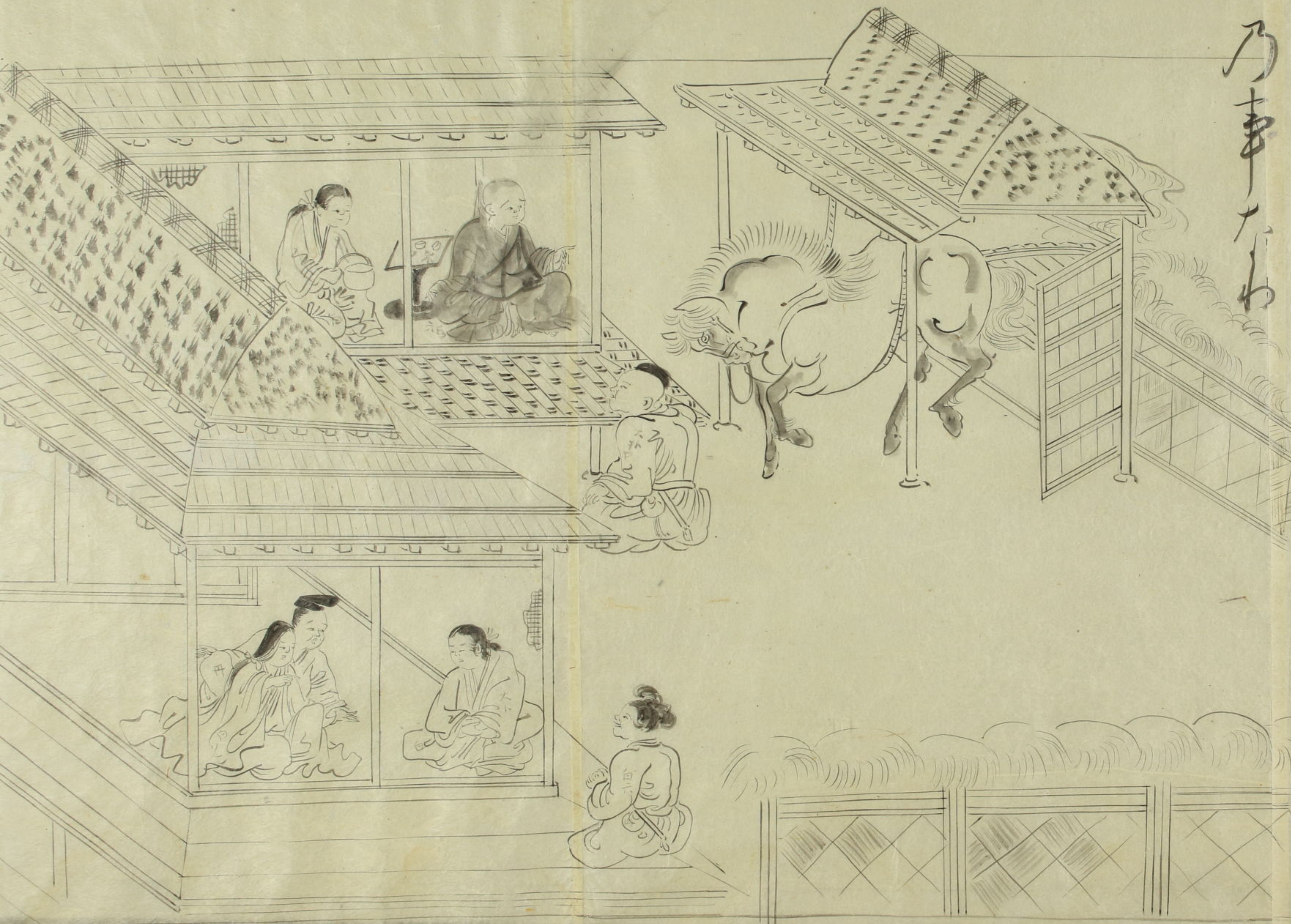


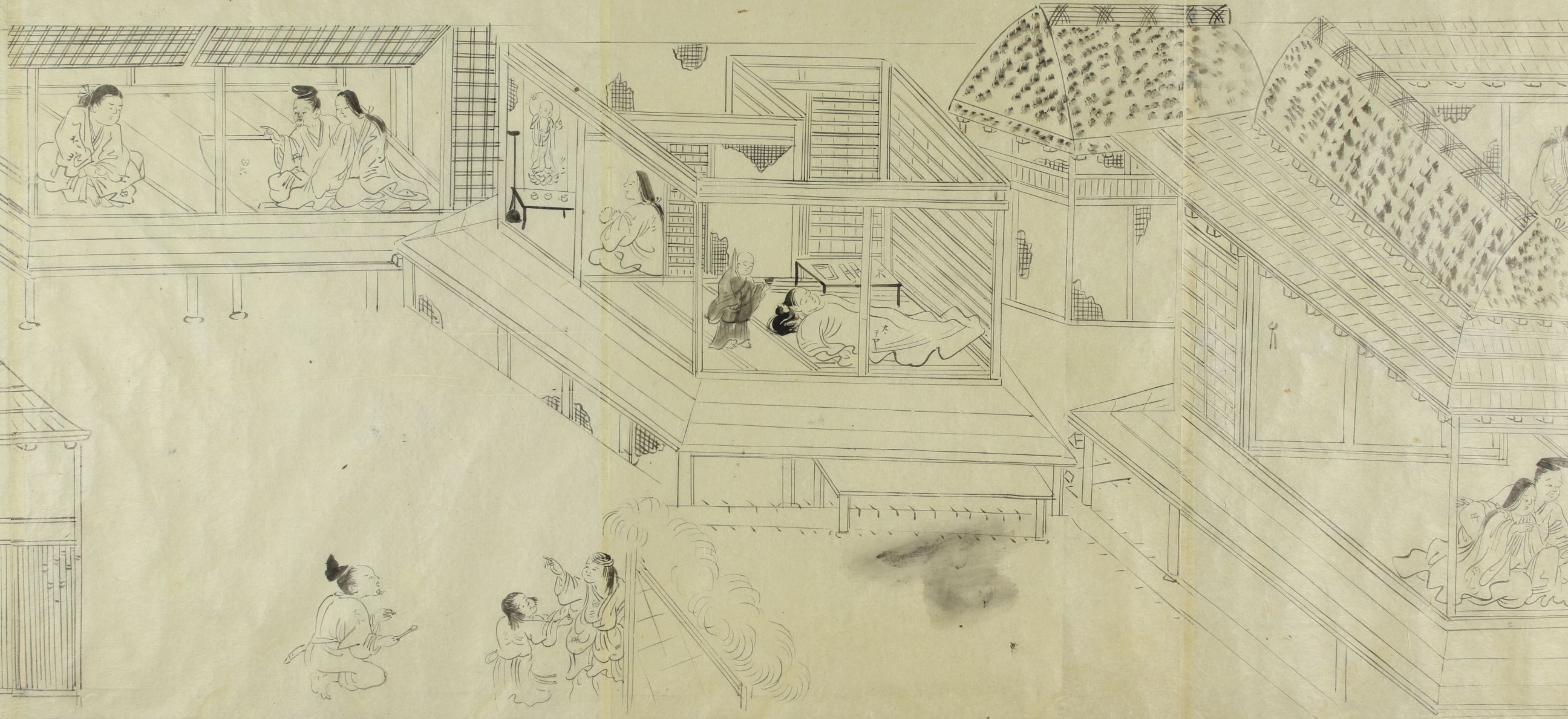


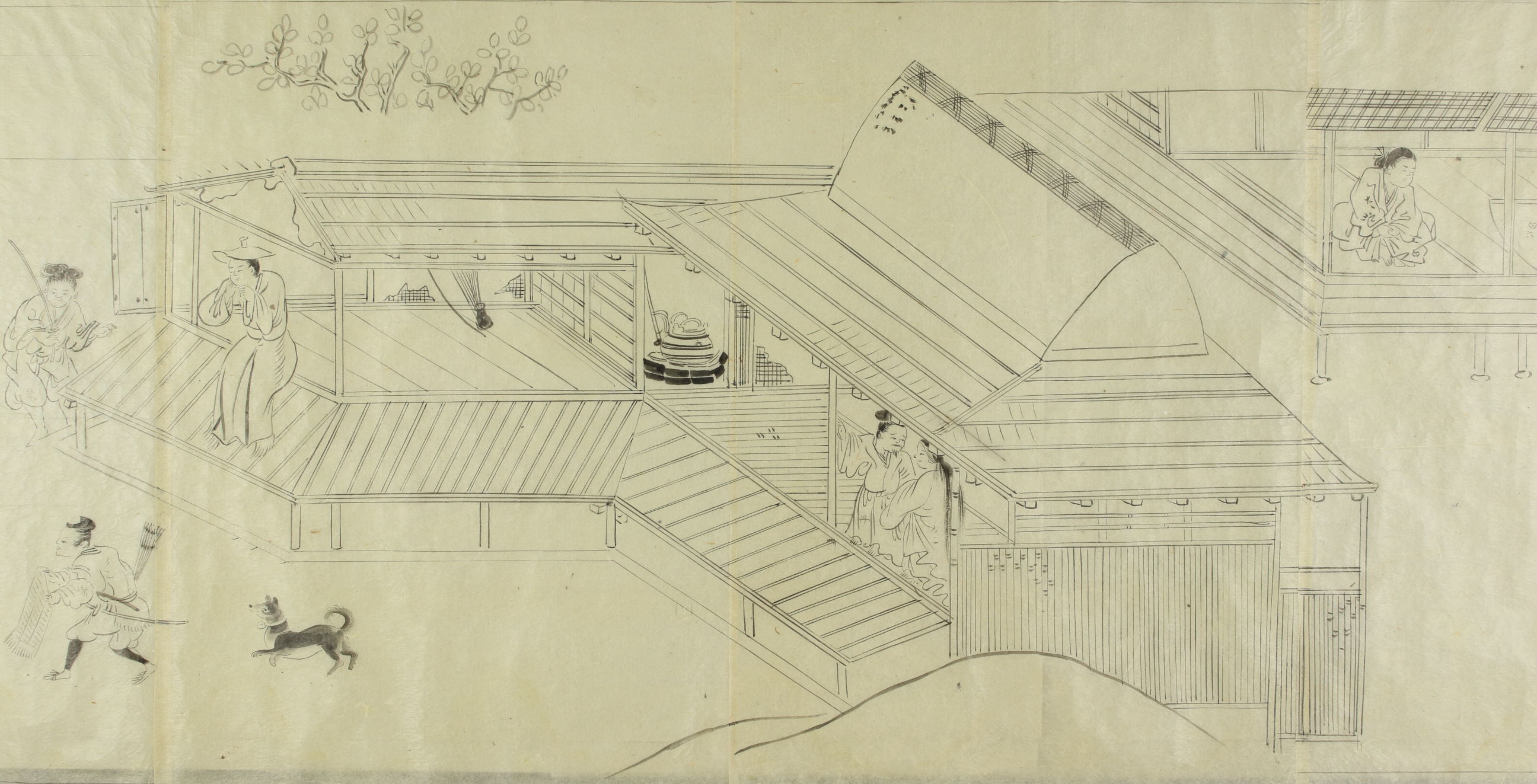
浮城小くするはさすて父母の病乃極
越かふるふ母に此事を聞て驚か見
たやうくと限り我昔よわ地病并

なすむこととてふらりて年ひき今世
後世能引導此御指しあか程にを
我子の病いやし給へと終末たなく
本意し申居るる上曉るまたりて決
子夢にみる極と見えめ此夜に給と
よまをうとけたる備乃お親小薬を
いれく一力よの薬強へ病いのぬと思
なむわれうれおれをさすはなれを
おんしころ母のな懐中をむしん
燈やきけはむせの地病并たわぬの母
ま來ぬ話さし深くあわよあひ
包のいよそをれをこ乃良の末越あ
あふたわ病いのぬ伊は存るへ均
く本意のしく前運をわく海しと

多来此路... 深... 乃良... 寺勢... 乃事...

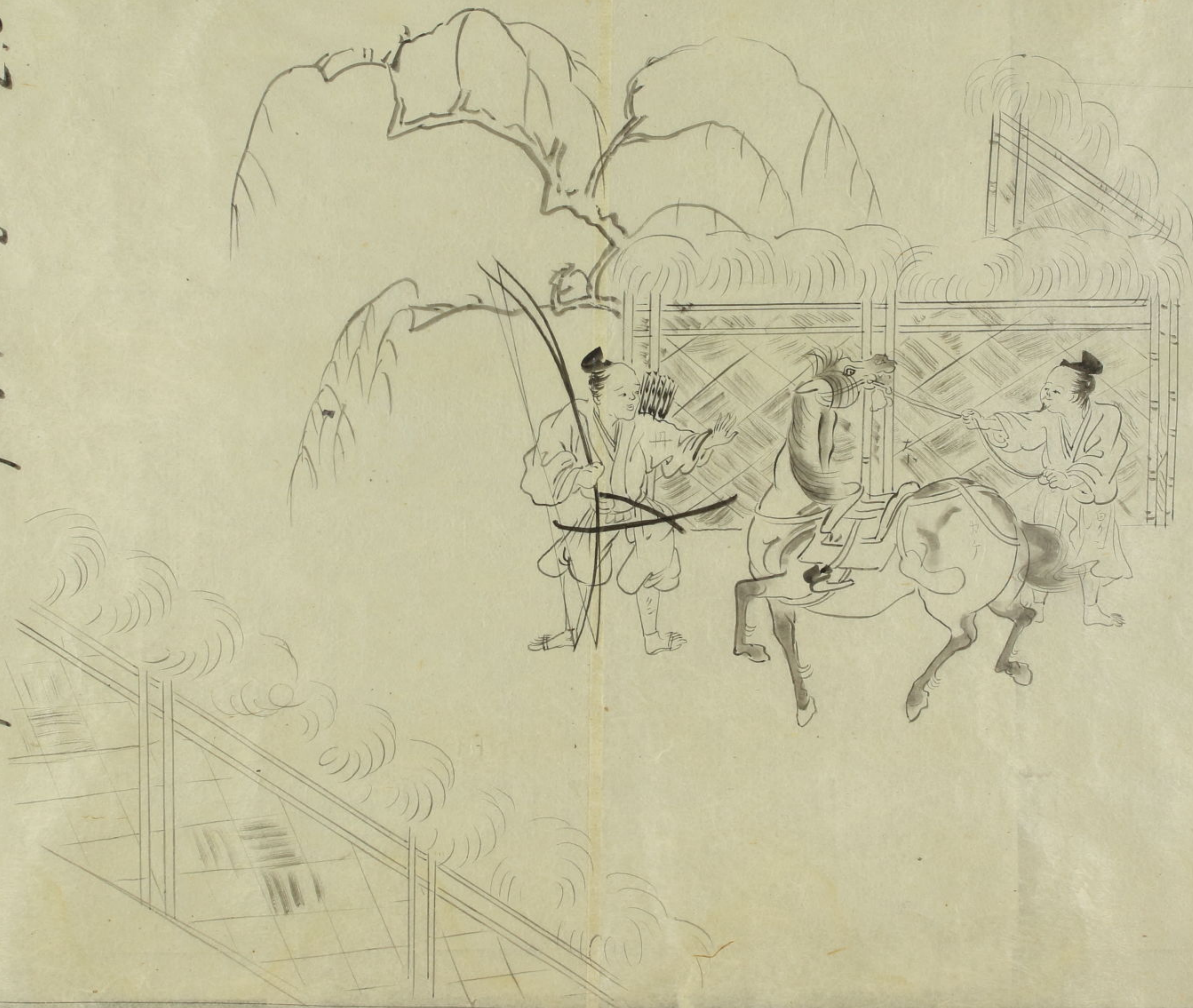






備中國有津郡宮比郷おほまの
大夫文時の家とて子孫繁昌し
後者の中ふこれ男あり精性不調

地藏菩薩城造供養せむを念願して刀
鉤乃難をよめ礼をふ事

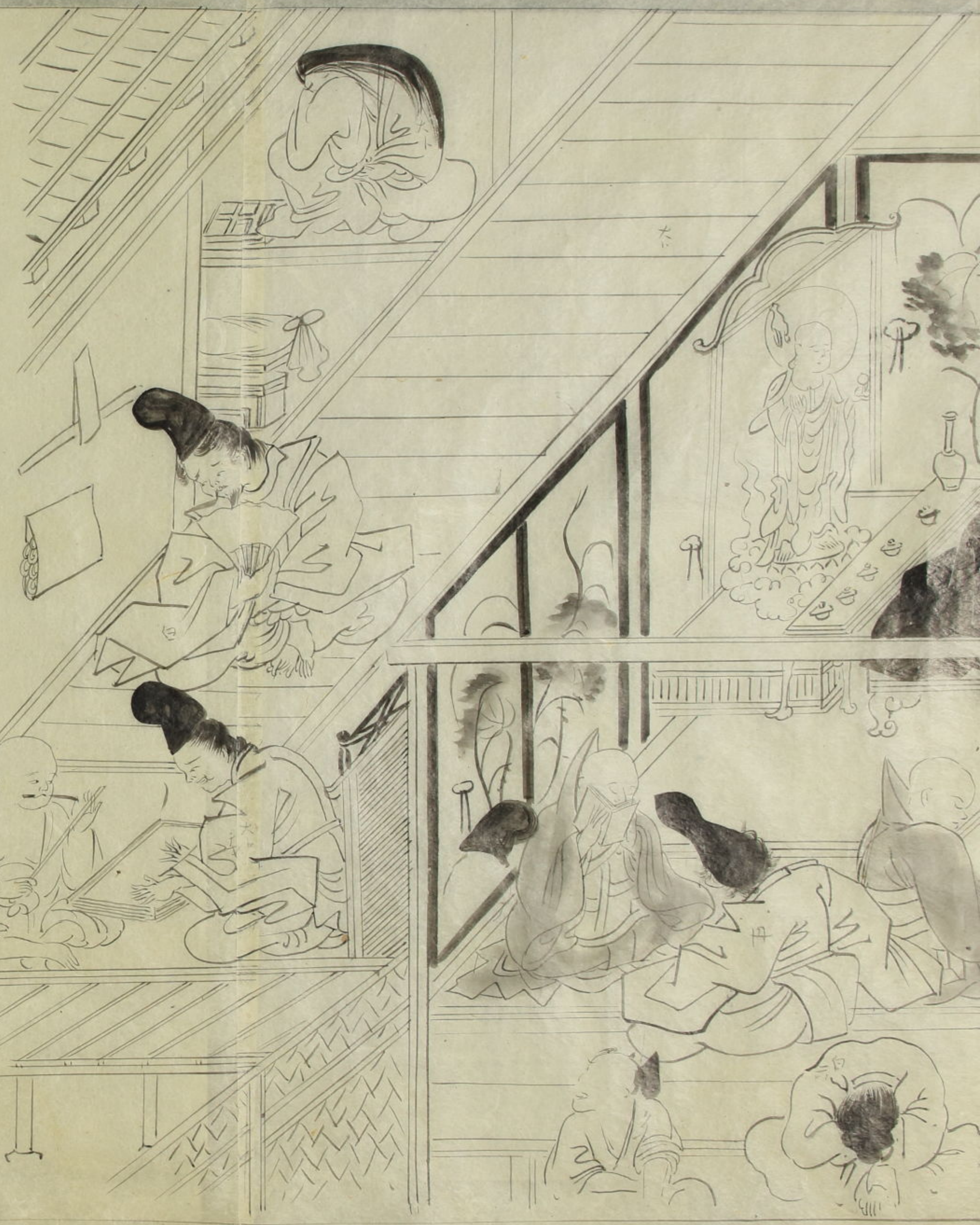


備中國有津郡宮北郷松原といふ
 大夫文時の家よりて子孫繁昌し
 後者の中小西此男あり精性不調
 にして謀計越心しそらぬあや
 ら越しとい入よあそまをとりし時
 例に極ま不當を現志望わ大夫おほ
 小いふて即事越りては男す見や
 け津坂よりて極ましくいふ事
 通しゆめくふ乃事しそふハか
 言及て繩を法守て馬北所をい
 そそ津坂へ引其時西男たしく

一
 三







一 地藏并に随逐に鄭を發して臨終

正念如く事

9 甲日此日中の着よ笑の相合め

地蔵并におんまじりて時雲貫

法橋よ作て修理を女一地藏并を佛

神のまじりて渡一しす夢さめく

あれを思ふまじりて地蔵并にえ給ふ

は思ふ地藏をさへかこ一又十の日の

かこ此御堂の丈六に地藏并石橋を

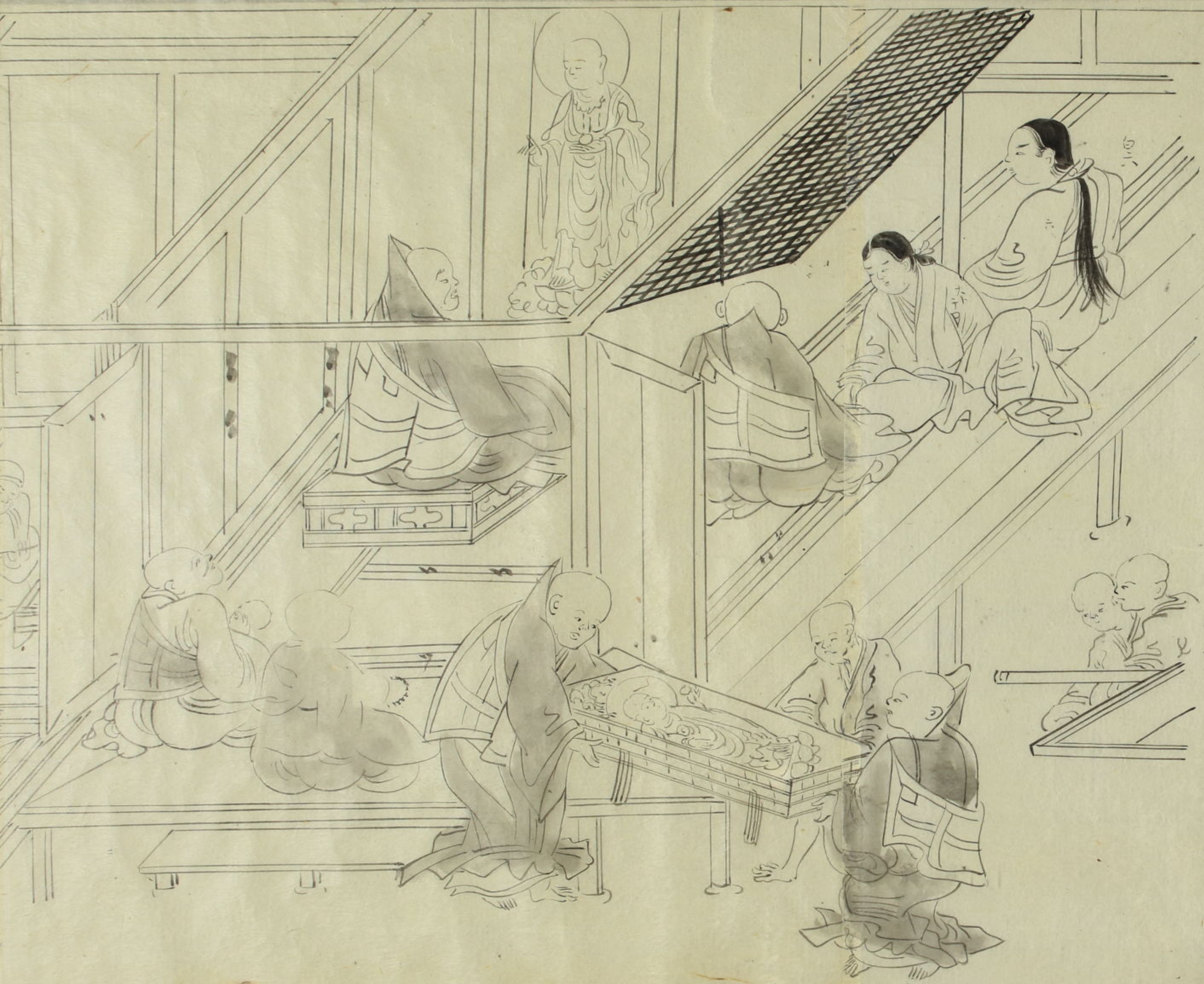
見て床のかわりて来給て見給十七日の

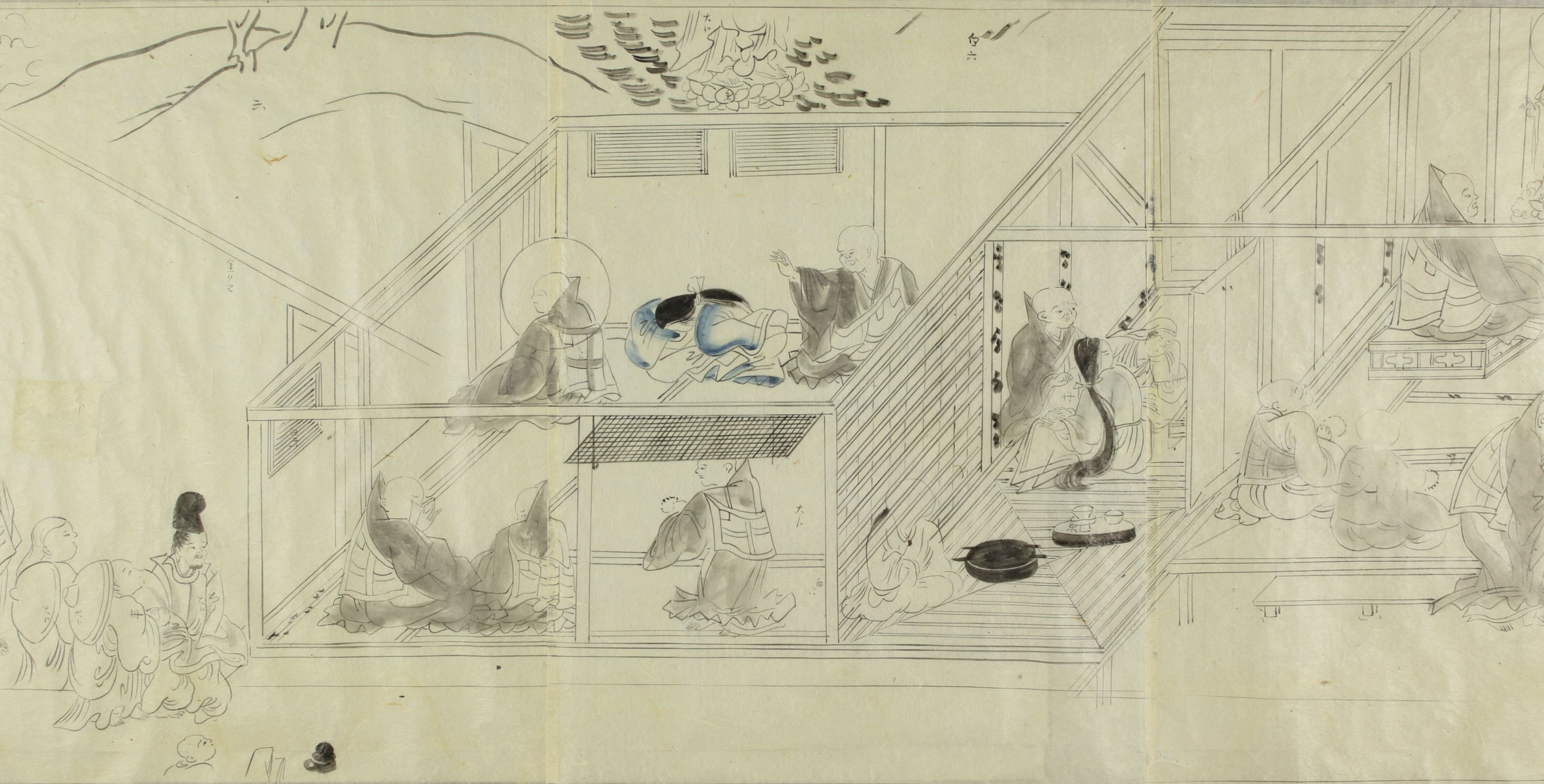
財世實附属を乱なく終言乃儀式中

伝れゆた思れこく志をさして十日湯

あ見たりと衣を着て十家十如れ依

財世實附属連乱なく終焉乃儀式中
 信此ゆた思れ、とく志をききて十日湯
 ありたうさ衣と着て十界十如れ依
 正三方三破れ名義故唱て廿日乃未刻
 小年ノ定即をせむといひ口ノ地花の寶号を
 唱て三昧に入るとして終をらる歳七午
 二たわ臨終の時赤日西よかろうさば雲
 東よりひく五色れ歌二筋れ光頂を照
 映異音ふまよら音あうらにた、と平
 り近しきもたむ人かた城志りん





全ッマ

北

大

大

大



一 地藏講結縁此人よかむわて昔を受給事

源行者延好越中ノ事山乃かちて一

夜心くまむ得る事ふ世時許まかけ此

とくならん来く事好見なく一志あ

り延好あやしと思て誰人うと一ハ志

のいあえわ守しさい答やうにまは平

乃京七条西北洞院東むす水のり一

こよひの門の家乃むと免也又母兄

弟見れいしにあむ我果教はるしく

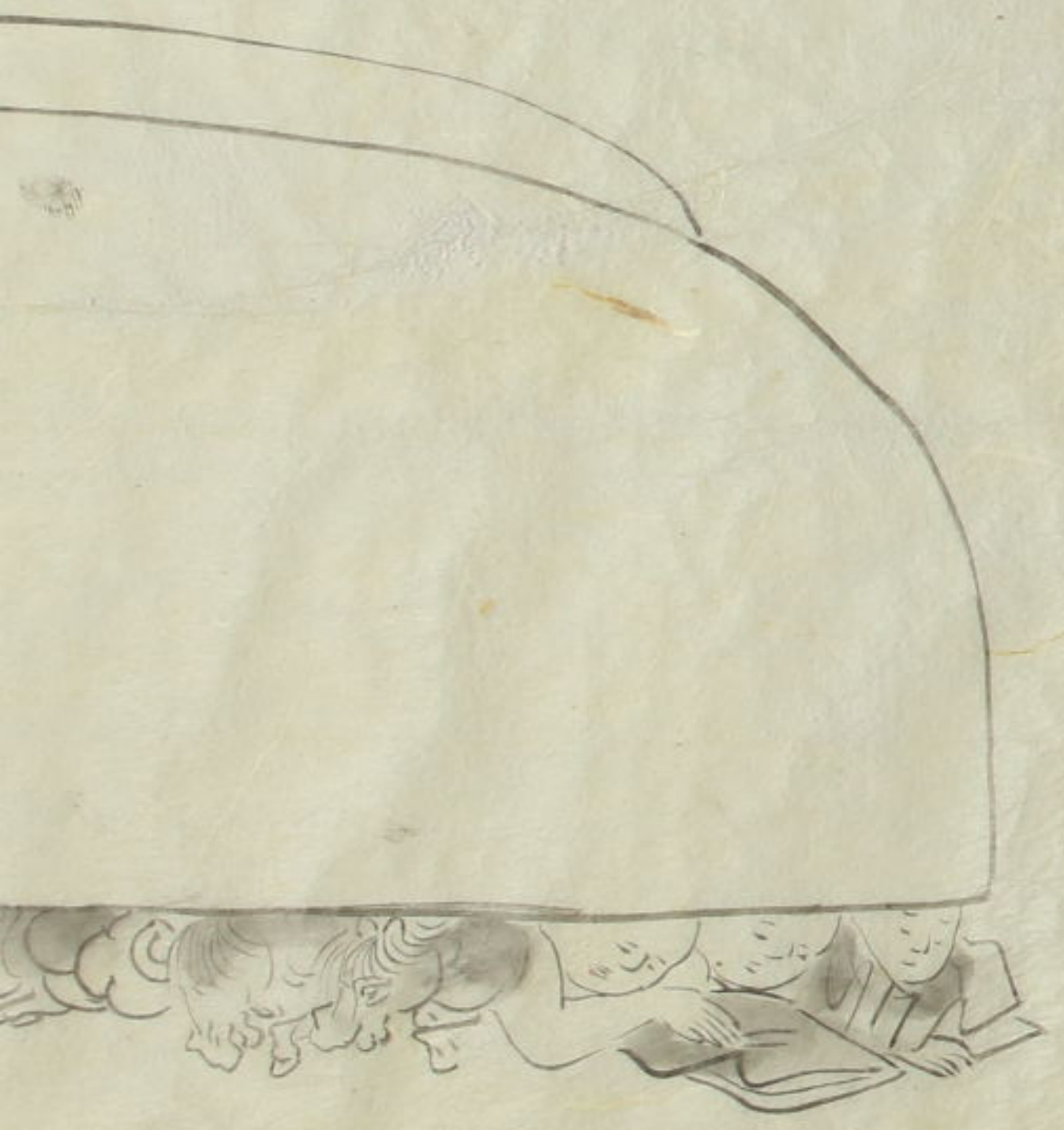
乃京七条西北洞院東むす水のり
こよひの門の敷乃むと免也父母兄
弟見ぬいたにあり我果教はるしく
志くもくして命をうけるい罪業よ
か筆しきげ山北地獄に朽ちるわ我生ある
人のさうひよわく祇園林る北地獄
北地獄と均すい志くもくわ外うへ
なる善根あげ地獄に北地獄畫し三
度く一見越うる也一にいんさかむ
済むせいの事を見れし一に
釘はらむのわく事骨肉も落
かむけぬ三片鬼衆を人さうに志し
かむ三ると十字をわげうら地獄講結
縁二度北地獄にあもる地獄の北の
をうくあむ一は伊つるもせよ
地獄をたれとてまはれし深らひ
いりし人の二の昔を北地獄れ
ういしよ鬼のういしよ
礼も骨よとわくを善をえが
生をわしす相々むのくわはれ
詠ひ鏡ありしよ
小舟われをりて地獄并地獄養

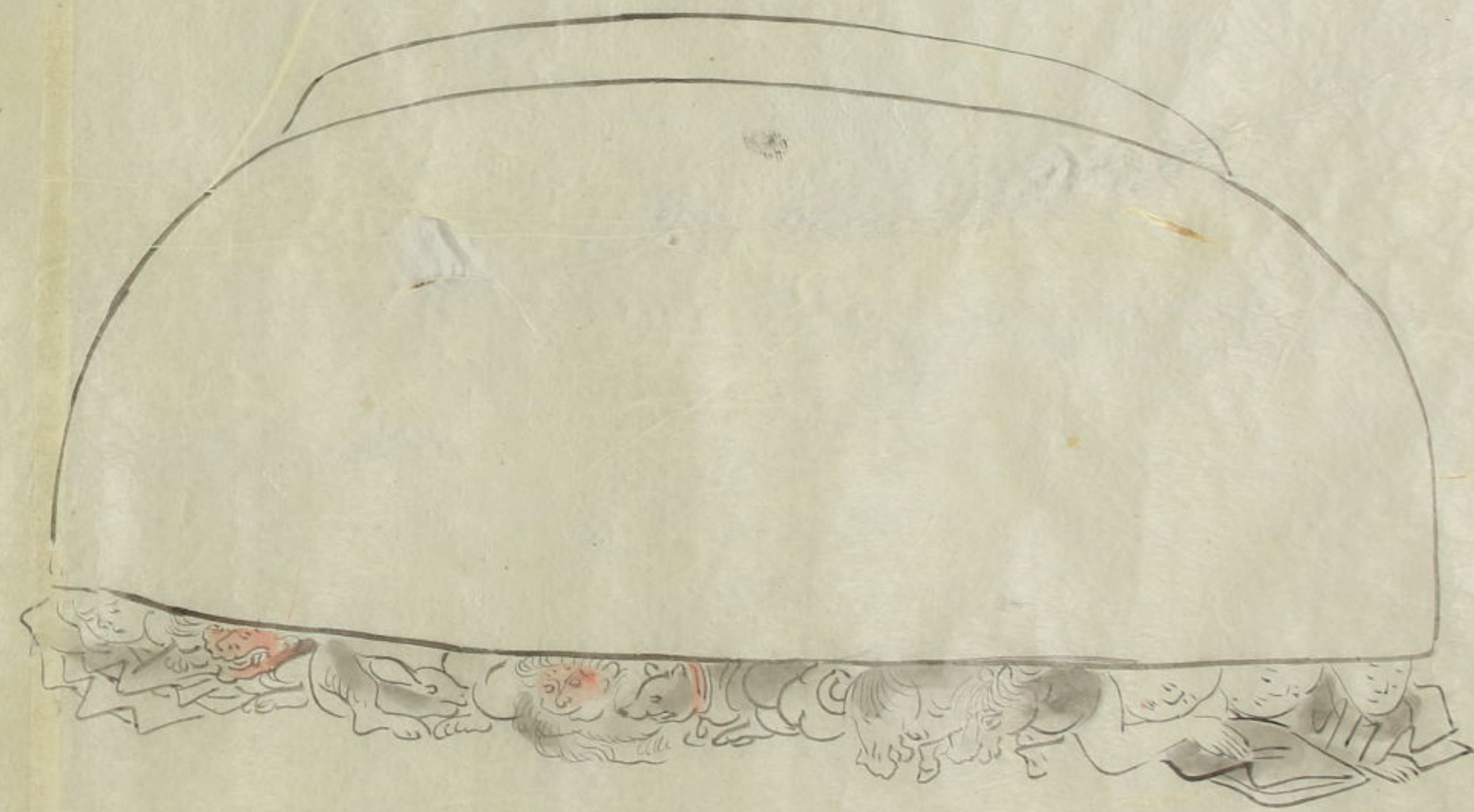


生をわし時相又しりのくわ成法く
詠ひ一鏡あり支いまもるむらじ
小待わぢれを所守て地所并ぢ修養
しては昔なをまけ給へと父母よつぎて
たへんまらちよいりもと因成報一をく
西行法師と申すなり



迄好下向此時乃乃をわたさずけり
かまわなれとも社む方れとも室乃
あられさよをねりて事れ子細か
父母よかろををれを家岸の物もたさ
かへむ屋そ三尺此地乃像を法
くわはる難三部をかさくしてあ段よ
鏡をこりうへく亭子院かく供奉
を導師大原の静源供奉也下れ板
ねる乃夢よ祈ろ子物をもと、雲雲よ
のりそ昨日此午時よ我極示よしりれ
侍れわ結縁乃人よかなすそらひき
をそまらるへといふを乃れ









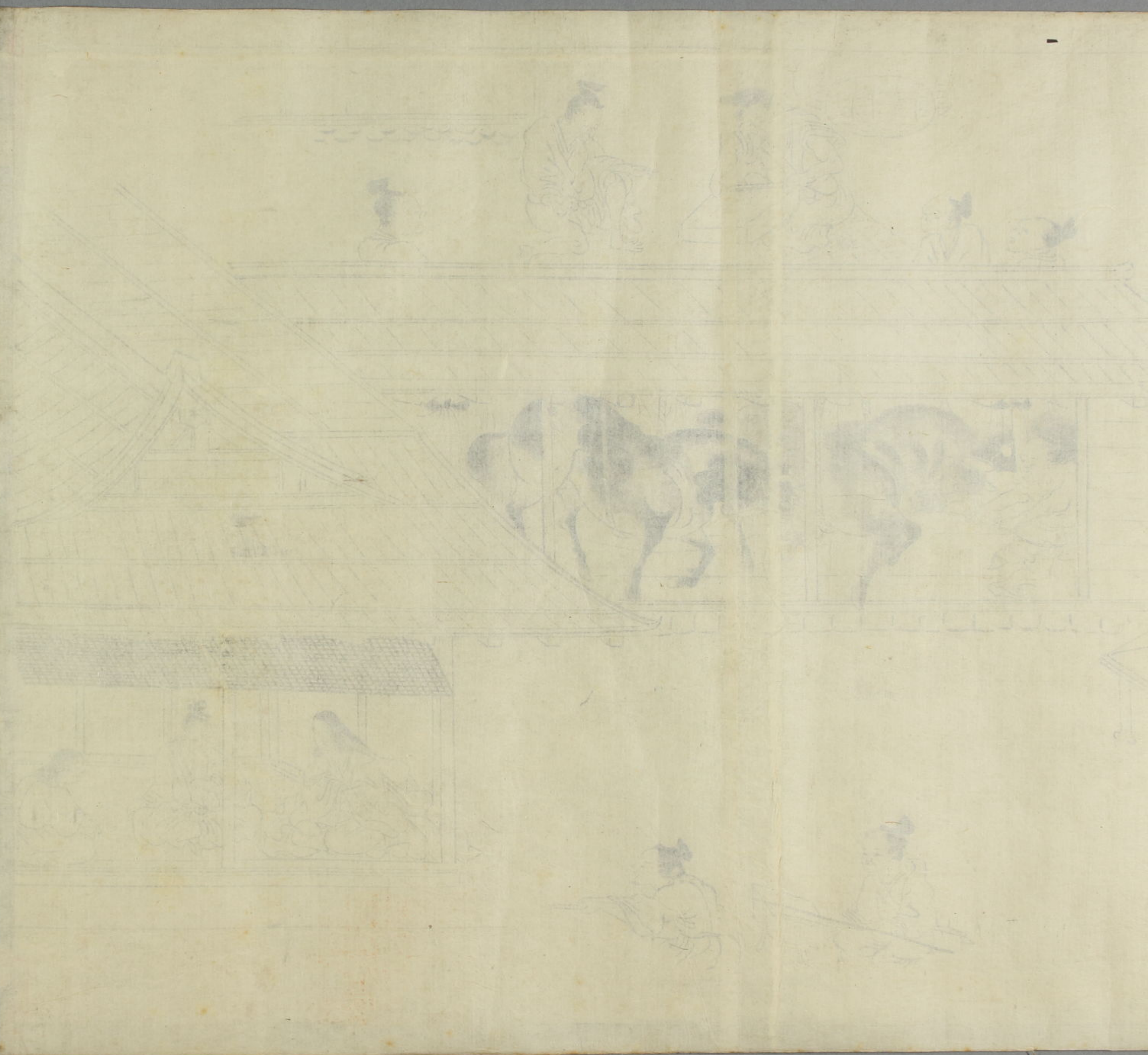


地藏菩薩感應記





地藏菩薩感應記



地藏菩薩感應記

摸本

特別
八四
1028



地藏菩薩感應記

特別

八四

1028

